

# デジタルサイネージの仕様の検討の進め方

---

平成27年7月10日

## 災害情報等一斉配信

- ① 災害等の緊急時において、災害情報、避難所情報、交通機関情報、支援物資の配布情報等を一斉配信すること。
- ② 最短の避難所までデジタルサイネージから発信される情報をきっかけとして、スマートフォンなどと連携させて、安全に誘導すること。
- ③ 2020東京大大会では、訪日外国人を含む我が国に滞在する人に対して、オリンピック・パラリンピック競技に関する最新情報(スケジュール、競技結果、選手情報等)を一斉配信すること。



帰宅困難者等に対する災害情報の提供



競技情報の提供

## 個人に最適な双方向による情報提供

あらかじめ、属性情報(言語、宿泊先、アレルギー、宗教、障がい、滞在期間、観戦予定、観光先等)を登録しておくことで、主要な観光地やショッピングモール等において、デジタルサイネージとスマートフォンやICカード等の他のデバイスと連動させ、利用者の属性(言語等)に応じた情報提供・サービスを実現すること。

### 【都市機能の高度化・景観美化の実現】

- ① 障がい者、高齢者含む、訪日外国人の動線をスムーズに誘導し、街の交流人口の拡大を促すこと
- ② 街の魅力を最大化する情報通信基盤となること



スマートフォン等と連携で多言語で情報入手



都市機能の高度化・景観美化

## パブリックビューイング

開催地のみならず、地方、海外において、会場に入れずとも、オリンピック・パラリンピックの感動(高精細映像・音響等も含めた競技会場の情報を伝送し、中継会場に応じた競技の場の再現による超高臨場感観戦体験)を共有できる場を提供すること。



大規模公園等でのパブリックビューイング



8K大画面でスポーツ観戦

## 実現方法(例)

Wi-Fi、他のデバイス(スマートフォンやICカード等)との連携機能、プラットフォーム機能(個人IDと属性との紐付機能、属性情報を反映した情報提供機能)、コンテンツ・配信方法の統一化、コンテンツに係る国際標準への準拠等

## 【対象とするデジタルサイネージ】

公共空間等に設置され、訪日外国人等への情報提供も目的とするデジタルサイネージ

## 【実現したい基本概念】

- デジタルサイネージの相互接続性を確保すること(災害時の一斉配信等が可能となること)
- クラウド連携技術等による多言語対応、個人属性に応じた情報提供を実現すること(スマートフォン又はICカードとの連携等)



○標準仕様の作成に係る仕様の検証及び標準提案のための実装化に向け、訪日外国人等の観光客から機能性等について評価を実施。

### 1)インターネット技術による実現

- ・新たに設置するものについては、HTML5といったインターネット技術を活用することによる、災害情報等の一斉配信やクラウド連携による個人属性に応じた情報提供の実現をめざす。

### 2)システム要件が異なるデジタルサイネージへの対応

- ・既存のデジタルサイネージなど、システム要件が異なる場合でも、パブリッククラウド等を活用することにより、異なるデジタルサイネージシステム間の相互接続性を確保し、災害情報等の一斉配信やクラウド連携による個人属性に応じた情報提供の実現をめざす。

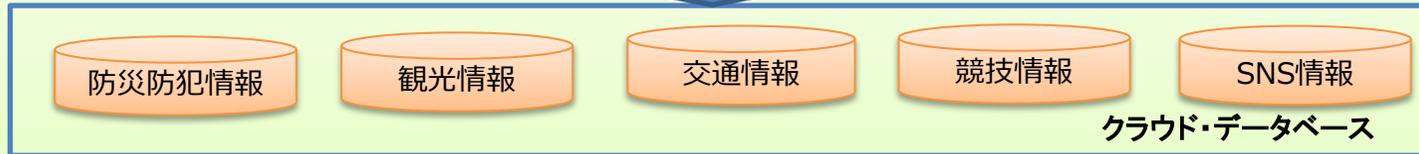
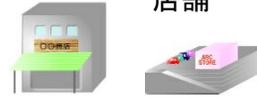
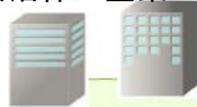
# インターネット技術とクラウド連携によるデジタルサイネージ

現在の独自システムで個別に運用されているデジタルサイネージに対し、多言語対応やスマートフォンやICカードとの連携機能等をネットワーク経由でクラウドから提供する「オープンデジタルサイネージプラットフォーム」を実現

コンテンツ提供者

自治体／企業

店舗



インターネット

オープンサイネージプラットフォーム

②クラウド・サービスが提供する  
共通インタフェースへの対応



①属性情報を踏まえた情報提供機能、一斉配信機能

Webインタフェース

サイネージコンテンツ

③他デバイスとの連携

モバイルサイト

アプリ

PCサイト

TV向けサイト



スマートフォン

タブレット

パソコン

テレビ



各種表示端末

## デジタルサイネージのサービス要件 (どのサイネージでも対応すべき共通サービス仕様)

○ 災害情報等の一斉配信サービス

○ スマートフォン連携による個人属性に応じた情報提供

○ サイネージ上での多言語情報提供

## サービスを実現するため明確化すべき システム要件

(どのシステムでも共通的に利用される共通技術仕様部分)

- ・ 平時コンテンツへの割り込み制御・復帰方法
  - －実装技術 ex) WebSocket、OSプッシュ通知機構等
  - －運用ポリシー ex) 優先度 等
- ・ Lアラート等災害情報ソースからサイネージコンテンツの生成・配信ルール  
(コンテンツフォーマット、表示サイズ、配信エリア等)
- ・ 多種多様なサイネージ端末への表示方法  
(フォーマット変換、サイネージシステム側インタフェース等)

- ・ サイネージと接続するスマートフォンの特定方法  
(ex QRコード、NFC、透かし、可視光通信、BLE等)
- ・ スマートフォンがサイネージと連携する際の情報取得方法
  - －サイネージとの通信手段: Wi-Fi、携帯網 等
  - －スマートフォンの情報取得先: クラウドまたはサイネージ 等

- ・ クラウドとサイネージ端末の機能分担  
(翻訳エンジン、音声認識エンジンの実装方法 等)
- ・ 多言語コンテンツの表示方法に関する規定  
(併記or切り替え等)

## ○ 災害情報等の一斉配信サービス

- 震度5以上の場合に、テレビ放送の災害放送について受信
- Lアラートからの災害情報等の一斉配信サービスを受信
- 放送局側からインターネット経由で一斉配信される災害情報に係る通信の受信 等

## ○ スマートフォン連携による個人属性に応じた情報提供

- スマートフォンやICカード等をかざすと自国語に変換されて表示
- 自己の身体の特徴、障がいの程度等にあわせたバリアフリーマップの表示
- 自分が行きたい観光地やショッピングモール等の情報表示、ハラル情報を含めたレストラン情報表示 等

## ○ サイネージ上での多言語情報提供

- 空港や公共空間のデジタルサイネージ上の言語を多言語による変換
- おもてなしアプリ等を自国言語により変換表示
- デジタルサイネージに自国の音声で話しかけると、その音声に応じて表示を変換 等